

# 阪神・淡路大震災に耐えた銅管

## 「あの時と、いま」

### 神戸メリケンパーク オリエンタルホテル



港の埠頭に浮かぶ美しいホテル

平成7年7月7日、777発の花火が神戸港を彩る中、「神戸メリケンパークオリエンタルホテル」は、阪神・淡路大震災と言う未曾有の災害を乗り越え、無事に竣工を迎えました。本誌では当時のホテルの様子を取材し、災害に耐え抜いた人々と、銅管と、希望に満ちた新しいホテルの姿を報告しました。あれから13年、当時を振り返りながら、ホテルと銅管の「あの時と、いま」をもう一度取材します。

#### あの時は...

#### 銅管が無事だったことが、大きな助けになりました

震災にあった時、当ホテルはまだ建築中で、これは予定通りの竣工は難しいと思いました。しかし、オーナーから「神戸の人達を元気づけるために、なんとかオープンさせてほしい」と頼まれまして、建築会社もホテルも一丸となって工事再開に挑みました。その時、銅管には本当に助けられました。調査してみると、なんと銅管にはほとんど被害がなかったのです。一から配管し直すことになっていたら、まず7月の竣工は不可能だったと思います。私は長年ホテル業界にいますが、ホテルの配管に銅を使うのは当たり前と考えています。銅管は、殺菌性があるので衛生面も優れていますし、耐久性・施工性などでも評価が高い。お客様をおもてなしするには、目に見えない所にも、最高の品質を用意すべきだ。初期投資を变に抑えても、5年・10年先に障害が出るようでは意味がない...。ですから、あの時も昔から信頼している銅管を迷わず採用しました。その結果が、この答えとなって現われたのでうれしかったですね。銅管は、ねばりがあって地震に強い、そんな言葉を思い出し、なるほどと実感したものです。当時もいまも「ホテルは、ゆとり・快適・安全を、何気なく提供できる場所であるべき」という信念があります。お客様の期待を裏切らない、より良いサービスを目指し、これからもスタッフと銅管に頑張ってもらいます(笑)。



神戸メリケンパーク  
オリエンタルホテル

相談役  
松下 衛氏



神戸メリケンパーク  
オリエンタルホテル  
広報室

アシスタントマネージャー  
大岩 祥子氏



旅客ターミナルとしての機能も備えている



ホテルに使用されている給湯用銅配管

#### いまは...

#### 新しい神戸・ウォーターフロントの中心でありたい

当時のスタッフが、大震災を乗り越えてホテルを無事にオープンさせたエピソードは、伝説となっています。その陰に銅管と言う頼もしい存在があったのも素敵な話ですね。いま神戸は、新空港ができたこともあり、「街をデザインする」というテーマで、より開放的・国際的な都市へと、もう一度生まれ変わろうとしています。特に注目されているのが、ウォーターフロントの開発です。港の周辺にあった倉庫もなくなり、この周辺も商業施設やホテルなどが増えて来ました。その中で、当ホテルは、港の旅客ターミナルも併設した宿泊客以外の方にもオープンなアーバンリゾートホテルとして機能し続けています。飛行機や新幹線、車で神戸を訪れる方の観光の拠点となったり、クルージングを楽しめる方の安らぎの場となったりと、国内外のお客様が様々なスタイルで当ホテルを利用されています。全室に設けられたプライベートバルコニーやプール、レストラン&ラウンジからの眺めは素晴らしく、優雅な船旅のようなホテルライフを満喫できます。また、海が目の前に広がる会場でのブライダルも多くの方にご利用いただいています。ここに来れば、食事も、ショッピングも、クルージングも、神戸の魅力がすべて手に入る...。そんなウォーターフロントの中心として、さらなるサービスを目指していきたいですね。

神戸港震災  
メモリアルパーク  
震災の教訓を風化させないために、メリケン波止場の一部が、震災当時のまま保存され、一般に公開されています。



#### DATA

使用管種... 建築配管用銅管(M)  
JWWA-H-101  
使用場所... 給湯設備(客室ユニットバス、洗面所、厨房)  
使用量... 4,910m、8,624.86kg



世界でも唯一?  
灯台のあるホテル  
14階のバルコニーには、航路標識として海上保安庁が認可している灯台が。海図にも記載されている正式な灯台です。